



地域拠点施設「なないろひろば」を核とした店舗設置と移動販売の実施（宮城県七ヶ宿町）

【地域の概況と課題】

- 七ヶ宿町は、宮城県の最南西部に位置し、福島・山形の両県と境界を接し、人口約1,200人(2020年国勢調査)、仙台市から車で75分の町
- 平成22年から31年の10年間で、人口は約400人減少。こうした状況を踏まえ、「第6次七ヶ宿町長期総合計画」において、今後のまちづくりの課題として、
①移住・定住人口の確保、②満足度の高い魅力ある生活環境の創出、③地域特性に応じた協働の体制づくりを掲げている

【対応方向と特徴】

- 「第2期七ヶ宿町ふるさと創生総合戦略」に基づく「まちの魅力・活力プロジェクト定住環境」の中で、**地域ニーズに応じた生活支援の一環として、「なないろひろば」に設営されているミニスーパーや移動販売車を整備することにより買物を含む生活環境を維持だけでなく、高齢者の見守りを実施**
- 同ひろばは、七ヶ宿まちづくり株式会社（30名体制）が管理・運営し、併設されるカフェレストラン、入浴施設を含め、**住民の生活の利便性向上だけでなく町内外の交流の場**となっている
- 町では、同ひろばの活用促進と併せ、移住・定住の流れをつくるため、古民家を改修した移住定住支援センター『七ヶ宿くらし研究所』（地方創生推進交付金活用）を拠点に**移住相談だけでなく自然体験も実施しており、関係人口の拡大等**にも取り組んでいる

＜町民や移住希望者からの悩み・相談・要望等＞

- ✓ 昭和60年から七ヶ宿ダムの建設が始まり、3つの集落が移転され、急激に過疎化、高齢化が進んでしまった。是非、自分たちの集落に子育て世代に移住してきて欲しい。
- ✓ 自然豊かな七ヶ宿町にIターン移住して、のびのびできる環境で子育てがしたいが、買物をはじめ学校や病院やその移動など生活環境が整っているか心配。
- ✓ 売り上げの減少や後継者がいないなどの理由で閉店する商店が増えている。町の生活環境を維持するためには町外からの交流人口を含め、利用者を拡大していく必要がある。

「小さくても持続可能なまち」七ヶ宿 住民交流事業

子育て世代の交流会

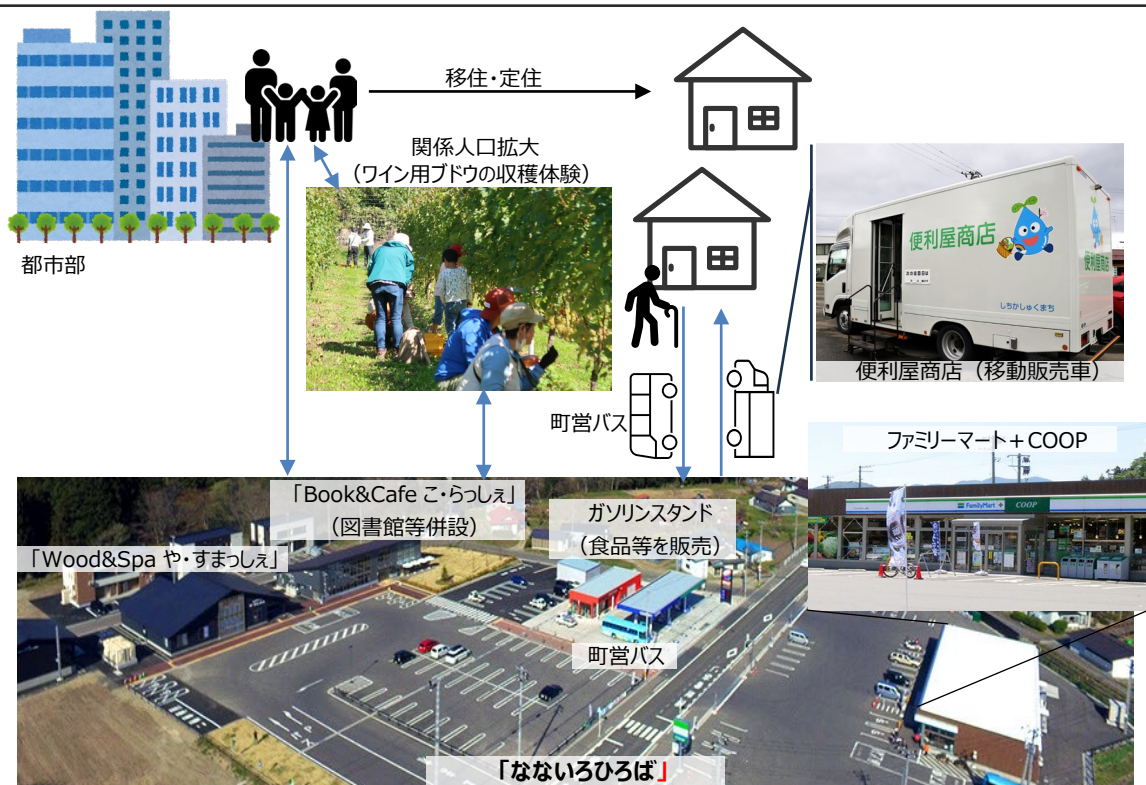
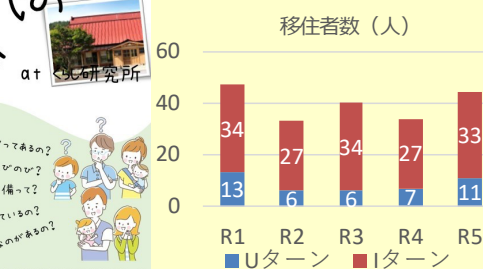
日時 8/20(土)
10:00～11:30
会場 七ヶ宿くらし研究所
会費 無料 ワンドリンク付
定員 15名程度

交流会はなないろひろばの「なないろ」を核として、町民や移住希望者から「なないろ」の活用や、子育て世代の交流、移住定住の相談などを実施しています。

交流会のイベントではどのような取り組みがありますか？

交流会のイベントではどのような取り組みがありますか？

交流会のイベントではどのような取り組みがありますか？



※地方創生拠点整備交付金により整備した「なないろひろば」